

福岡県議会議員(西区選出)

田中だいじ

県政報告 2022年 vol.3



新型コロナウィルス感染症の流行は感染状況の下げ止まりが続いており、感染力が高いオミクロン株「BA.2」系統のウイルスへの置き換わりなど、依然として予断を許しません。

経口薬が特例承認され新たな局面を迎えようとしています。感染拡大防止に留意しつつ「新しい生活様式」を実践して日常生活を送って行きたいものです。

私は厚生労働環境委員として感染防止や、コロナ禍における雇用対策の強化、生活困窮者への支援に取り組んでいます、2月定例会でも新型コロナ関連の様々な議案を審議しました。

田中大士

一般質問 2月定例会で一般質問で登壇いたしました。能古島の甘夏に代表される中晩柑の生産振興と、6次産業化の支援について質問しましたので抜粋して報告致します。

● 能古島の甘夏に代表される中晩柑の生産振興について

田中 私は、能古島の甘夏は、単なる農産物、特産物というのに留まらず、能古島の自然や景観を形成する一部でもある、とても価値のあるものだと感じており、今後もしっかりと残していくべきものだと思っています。

柑橘といえば、山川や八女の温州みかんを思い浮かべる方も多いと思いますが、地域に根付いて生産される柑橘も県下各地に存在しています。

本県の果樹を語るうえで柑橘は欠かせません。その柑橘のひとつである甘夏などの中晩柑農家にも、温州みかん同様に対策が必要だと考えます。

そこで、知事にお尋ねします。この能古島の甘夏に代表される中晩柑の生産振興をどのように行っているのか伺います。

知事 中晩柑は、霜の被害を受けやすいという特徴があることから、海岸線沿いなどの温暖な地域で生産が盛んに行われており、こうした地域では、温州みかんと並んで、柑橘農家の経営を支える重要な品目となっている。

このため、県では、高収益型園芸事業により、防風ネットや貯蔵庫などの施設の整備を支援し、収量や果実品質の向上を図っている。また、国の事業を活用して、消費者ニーズが高く、高価格で取引されている「不知火」などの導入を支援している。

● 6次産業化の支援について

田中 能古島の土産物店を覗いてみると、甘夏を使ったワインやポン酢などの加工品が販売されています。この6次産業化の取組は、農家の収入確保や雇用の創出につながるとともに、加工品をきっかけに、消費者の果物離れを食い止める事にもつながり、能古島の甘夏そのものを好きになってもらう事にもなると考えます。

このように、本県では地域特産の農林水産物を使った加工品が開発され、販売されております。今後は、これらの商品が今以上に売れる商品となるよう後押しが必要と考えますが、県として、6次産業化をどのように支援していくのか。

知事 県では、これまで6次化商品の開発を支援してきたところであり、その結果、各地域で多くの商品が販売されるようになっている。こうした商品が、消費者に選ばれ続けていくためには、変化するニーズを的確に捉えて商品を改良し、PRを行っていく必要がある。

このため、県では、来年度から新たに、商品やパッケージデザインの改良を行う際に、専門家を派遣するとともに、必要な機材の導入等を支援してまいります。また、学識経験者や百貨店のバイヤーなどが審査する「ふくおか6次化商品セレクション」を実施し、受賞商品について、メディアを活用したPRを行い、これら商品の認知度を向上させてまいります。

緑友会県議団 代表質問より抜粋



- ① 知事の政治姿勢について
- ⑤ 本県の豪雨対策の取組について
- ② 農林水産問題について
- ⑥ 産業廃棄物の不適正処理や環境汚染問題について
- ③ 食文化の振興と美味しい水の提供について
- ⑦ 人づくり・教育問題について
- ④ 新型コロナウイルス感染症対策等について
- ⑧ 県民の安全・安心について

②-2 「あまおう」の生産拡大に向けた先端技術の活用について

AIを導入した「農機自動化による超省力化」と「データ活用による精密化」により、スマート農業という新たなソリューションが実現でき、農業に携わる方が世代をこえて安定的な食料生産が可能となり、日本農業は進化し続けます。本県では令和4年度から、県産ブランドのイチゴ「あまおう」の生産拡大に向けて、安川電機など県内企業と連携してロボットやAI技術を導入する事業を始めるとしています。先端技術の活用で作業の大幅な省力化を図り、生産拡大につなげる考えです。そこで知事にお尋ね致します。具体的にどのような取り組みにより、いつまでに実現させようとするのかお聞かせ下さい。

知事

- 「あまおう」は、消費者から高い評価をいただき、流通関係者からは供給の拡大を求められているが、生産者の高齢化や労働力不足が課題となっており、生産の省力化が不可欠である。
- このため、県では、労働時間の5割を占める収穫と出荷調製作業を省力化できるよう、民間企業と連携し、これら作業のロボット化を目指している。
- ロボットの実用化に向けては、県農林業試験場において、果実の収穫時期を正確に判断し、傷つけずに収穫できるか、規格に応じて選別し、傷つけずにパック詰めできるかといった点の評価を行い、改良すべき点を企業にフィードバックすることで、開発を加速してまいります。
- 県としては、こうした取組により、3年後の実用化を目指している。

⑦-6 県立高校におけるBYOD方式の成果と課題及び1人1台タブレット導入による効果と生徒の育成について

県立高校における高校生1人1台端末の整備では、BYOD方式の成果と課題を踏まえて、日常的にICTを活用できる環境を整備するとしています。このBYOD方式の成果と課題についてどのように捉えられているのか教育長にお聞きします。また、1人1台タブレット端末の導入により、学校の授業がどのように変わり、生徒のどのような力を伸ばそうと考えているのか、教育長のお考えをお示し下さい。

教育長

- BYOD方式では、生徒が使い慣れたスマートフォンを使用するため、操作やインターネットの検索・閲覧がスムーズにでき、授業に対する積極性が向上したなどの成果があった。
- 一方で、スマートフォンは画面が小さいため、グループ学習での情報共有や協働作業が不便であったり、キーボードがないため、小論文の作成やプレゼンテーション資料の作成などに支障があるなどの課題が明らかとなった。
- 1人1台タブレット端末の導入によって、これらの課題の解消が図られるほか、例えばあらかじめ授業動画を自宅で視聴して、教室では発展的な活動を行う反転授業など、一斉伝達型ではない、生徒主体の効果的な授業が展開できる。
- このようにICTを効果的に活用した指導と、これまでの対面による指導とのベストミックスを図ることで、社会で自立的に生きる力の基礎となる情報活用能力や、主体的に考え、多様な人々と協働して解決策を生み出す力などの育成を図っていく。

⑧-1 道路交通環境の整備について

県民が安全安心、さらには快適に利用できる道路交通環境の整備の観点から、本当に県民の皆さんのが要望などに満足に応えられていると言えるんでしょうか。知事の認識をお聞かせ下さい。また、今後どのような対策が必要と考えられるのかお示し下さい。

知事

- 本県では、安全安心な交通を確保するため、地元からの要望や、交通量、事故の頻度などを踏まえ、優先順位をつけ、地元協議・調整を行い、交通安全施設の整備を計画的に進めているところである。
- 一方、事故の危険性が高い通学路など、緊急性の高い箇所については、速やかに集中的に対応することとしている。
- 今後も、国・市町村・県警察と連携を図りながら、県民の安全安心を確保できるよう、快適な道路交通環境の整備に努めてまいります。

田中だいじ事務所

だいじな絆、ともに未来へ

〒819-0002 福岡市西区姪の浜4-21-1 クリーンコートハイ201

TEL 080-3905-6363 <https://www.facebook.com/ganbare.daiji>

